

議題 北九州市立美術館運営評価について

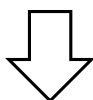
評価項目1: 作品 ～資料収集・環境管理・保存～

外部評価

	評価	理由
① 実績 に対する 評価	資料収集、環境管理については評価できるが、データベースについては、今後の取組が懸念される。	<p>○資料収集について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算で自らの企画展に出品された作品を優先して購入する点は高い評価に値する。 ・地域と関係の深い作家を重要視して、その作品資料を重点的に収集していくことは、美術館活動の充実、基盤づくり、後世に向けた継承として不可欠の事柄であるから、こうした作家の作品資料を収集保存に力を入れている日常活動は大いに評価する。 <p>○作品修復について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急性の観点から修復作品を変更したことは致し方ない。収蔵庫を自分たちで整備管理するという意識は作品保全の基本だと思うので、その姿勢は評価する。 <p>○作品データベース等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通りに進捗しておらず、今後の取組が懸念される。 ・データベースに関する目標設定があいまいで、評価しにくい。

	妥当性	理由
② 自己 評価の 妥当性	【総合評定B】 妥当である。	<p>○収集については、調査研究と展覧会開催の成果であり、特に市ゆかりの作家に関して所蔵者や遺族との信頼関係が寄贈へとつながった点は評価できる</p> <p>○環境管理・保存については、計画通りということから評定Aに異論はないが、修復作品1点という数が、他にも候補がありながら、予算の関係で見送ったのか、緊急性のあるなしがどうなのか、などが判然としない。</p> <p>○作品、および図書のデータベース整理については、マンパワー不足が要因なので、理解はできるが、今後の対策が待たれる。</p>

③ 運営 改善の 提言	<p>○美術作品の収集は継続されることを望む。</p> <p>○収蔵品の数を考えると、年間1点の修復ではペースが遅すぎるように思う。収蔵庫の環境整備については継続を希望する。</p> <p>○作品図書のデータベース化は、これからの美術活動の一環として一般公開をし、広く美術愛好者に限らず利用してもらう重要な部分であるから、できれば専門知識を有した人材が欲しいが、少なくとも入力作業の非常勤職員を獲得する必要は重く見なければならない。2024年の公開を是非実現すべきである。</p> <p>○作品、および図書のデータベース整理に関しては、美術館のソフト部分の肝であるだけでなく、現在のようなコロナ禍におけるウィズ・コロナの現状を鑑みると、データベースの作成、更新は、一般公開やオンライン鑑賞などの需要の点で、ますます重要性を増すと思われる。一刻も早い整理が肝要である。マンパワー不足という現状は理解できるが、臨時職員や嘱託職員の配置なども検討し、財政局への説明、理解の努力を続けていくべきである。全国の美術館でも、その点はまだ不十分な館が多いと思われるが、最低でも5カ年計画での目標である2024年までに一般公開することは責務と考える。規模もあるが、できれば前倒しで公開できる計画の策定を再検討してほしい。</p> <p>○作品及び図書データベースについては、マンパワー不足を感じます。一般公開については、完璧な状態での公開でなくても、段階的公開を検討されてもいいと思います。</p>
----------------------	---



課題解決のために取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に収蔵庫内の点検・清掃を実施し、作品の保管環境の安全を確認する。 ・博物館機能の核として、作品購入費と作品修復費の確保、拡大の努力を続ける。 ・再度、館内でデータベース整備の目的や活用方法を話し合い、実施可能な計画に見直すとともに、財政局に粘り強く予算要求を行う。
----------------	--

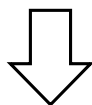
評価項目2: 公開～調査研究・展覧会～

外部評価

	評価	理由
① 実績 に対する 評価	評価できる。	<p>○対面調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱心に行われている点、高く評価される。その成果となる展覧会図録での論考も適宜行われていることも同様である。 <p>○展覧会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他館との連携も良好のようであるが、自主企画と連携の差が判りにくいので、明らかにして欲しい。全体としては良好に推移したと判断される。 ・新鋭作家の調査が展覧会や新収蔵の形で実を結び、かつ次年度以降についても計画的に調査が進んでいる点を評価する。 ・調査研究に基づくコレクション展や自主企画展の開催は、十分な本数と内容である。 ・連携企画に積極的にに関わり、実績を残された点は評価できる。 ・「高橋秀+藤田桜 素敵なふたり」が2019年美連協奨励賞を受賞したことは高く評価される。 <p>○研究成果の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文等の発表が6件は、若干さびしく思われる。 ・十分評価できる内容と件数だと思し、各担当者がそれぞれ実績を残されている点を評価する。図録も大変充実している。

	妥当性	理由
② 自己 評価の 妥当性	【総合評定A】 妥当である。	<p>○毎回異なるテーマのコレクション展の企画、および一般と子ども両方を意識した展示構成をとくに評価する。</p>

③ 運営 改善の 提言	<p>○サイトウマコトについては、図録論文が発表されているが、貴館のコレクションはずぐれたものであるし、コレクション展示は特色を発揮するいい機会なので、学芸員の論考を併せて載せた予算のそうかからない冊子を少し充実させていくと研究・展覧会のレベルがあがると思われる。</p> <p>○「今後の対策」にあるように、連携企画の場合、複数の展覧会を抱える学芸に業務が集中することがあります。スケジュール管理が必須です。</p> <p>○コロナ感染拡大により、新たな公開のあり方を工夫する必要性が生じている。直接来館していただく際の工夫とともに、オンラインの活用など、柔軟な発想で模索していただきたい。</p>
----------------------	--



課題解決のために取り組むこと
<p>・引き続き調査研究を積極的に行い、テーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催すると共に、学芸員による論考の発表機会も増やし、美術館の発信力につなげていきたい。</p>

評価項目3:交流～教育普及・地域交流～

外部評価

	評価	理由
① 実績に対する評価	評価できる。	<p>○ミュージアム・ツアーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軌道にのり、美術館のHPに掲載されていた利用者アンケート結果を見ると、「満足」の回答が90%以上となっている項目が多くあった。また、ミュージアム・ツアーのリポート数も昨年度より微増したこと等、評価できる。今後さらに、増加していくことを期待したい。(実際にはコロナウィルスの影響で難しいと思われるが) ・概ね好評である。7、12月は成績をつける時期ですので、不満は出ると想定される。しかし、教員のマナーの悪さは問題である。ただ、学校教員に向けた研修を行っても改善されるとは思えない。以前のように研修を行ってからというシステムに戻すと、多忙感が募り、この事業自体の継続が難しくなることが予想される。そこで、ツアーにあたっての注意事項に「近年先生方の美術館マナーの悪さが散見されます。次の点に気をつけてください。」と明記してはどうだろうか。 <p>○教育普及と事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会やギャラリートーク、ワークショップ、「美術館探検」等多彩な事業を実施し、参加者を伸ばしていること、また参加者の満足度を探るアンケートを実施していること等も評価できる。 ・「にじいろのさかな原画展」におけるワークショップはとても良いと思った。今後もこのようなワークショップがあると、少しずつ市民にも浸透し、美術館をより身近なものに感じることができると思う。 ・ワークショップについて、作家や他施設と協同する魅力的な企画が実施されていると思う。 ・児童、生徒に向けた教育普及活動については、満足度も高く、ぜひ継続してほしい。 ・教育普及、地域交流ともにウェブページやフェイスブックでのPRが弱いと思う。もっと活動の広報に力を入れたほうがよい。活動の認知が館の教育機関としての存在意義につながっていくと考える。 <p>○ボランティア事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な運用がなされている。

② 自己評価の妥当性	妥当性	理由
	【総合評定 A】 妥当である。	○評定は妥当である。

③ 運営改善の提言	<p>○ミュージアムツアーについて、学校説明会の中止は、学校側にとっては有難い面もあると思うが、ツアーの詳細説明や美術館マナーの徹底のためには、電話対応だけでなく、パワーポイントや画像での説明等、提供できる資料の作成が必要だと思う。</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止により、様々な活動が自粛の方向だと思うが、その中で、ツアーのガイドスタッフの研修等を実施し、対話型鑑賞活動がより充実するような準備をしていただくと良いと思う。</p> <p>○「高橋秀・藤田桜」さんの展覧会は、日曜美術館で二度も放映されたこともあり、ギャラリートークには多くの人が参加していた。メディアの力は大きいと感じる。他の講演会においても、市民が知っている人であればあるほど参加者が多い。</p> <p>○「ミュージアム・ピクニック」も良い企画であると思うので、幼稚園(ママ友の力は大きいので、実際に参加せずとも、ここに広報するのはおすすめ)小学校にチラシを配ったり、TVで宣伝したりしながら、今後も続けてほしい。</p> <p>○北九州市内の小中学生を除く学校団体等が来館した際の対応について不明である。</p> <p>○活動についての広報を、ウェブページやフェイスブックを定期的に更新する。</p>
-----------	--



課題解決のために取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策として今年度から美術館でのミュージアムツアーのマナー・注意事項等を映像で録画したDVD(教員用・児童用)を事前に小学校に配布する。 ・ネット配信や遠隔ワークショップなど、オンラインを活用した教育普及活動に取り組む。 ・幼稚園、小学校へのチラシ配布や活動内容の広報について充実させていきたい。

評価項目4: 広報～利用促進のための情報発信～

外部評価

	評価	理由
① 実績 に対する 評価	美術館に対する市民ニーズを把握するための取組みがされていない。	<p>○アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査(館外のみ)が限定的であったのが(数的にも)残念であった。出口調査を実施しなかったのは、どういう理由でなのか。 ・5カ年計画に基づく元年の取組みを策定され、それも具体的に掲示されている。出口調査であったり、SNSの開設(美術館としての)、旅行会社等へのPRのどれもが実績として出ていない(やっていない)のは理解しがたいです。 <p>○市民センターを通してのPR活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定の手応えがあったのはよかった。 <p>○インバウンド用パンフレットについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語版で作るより、韓国、中国等アジア向けに重点を置いた方が良いと思います。

② 自己 評価の 妥当性	妥当性	理由
	【総合評定 B】 妥当である。	○上記の事からそれぞれの自己評価はCとBが妥当であると思います。総合評定はBが良いと思います。

③ 運営 改善の 提言	<p>○アンケート調査は、①一般の方②来館者(利用された方)の両方に実施することによって、多角的な情報が収集できるのではないかな。</p> <p>○市民センターに対するPR活動は、今後も続けることによって、新たなニーズを掘り起こすきっかけになるのではないかな。</p> <p>○インバウンド用のパンフレットは、英語版以外にも広げることを検討してもよいのではないかな(コロナ禍の収束後を見通した準備をする)。</p> <p>○しっかりとした5カ年計画を立案されており、それに基づく取組みも明確になっているので、やはり最低限実績として残していただきたいと思います。</p> <p>○コロナもありここ数年インバウンドも見込むことはできないと思いますので、それ以外への情報発信を考えるべきであると思います。</p>
----------------------	---



課題解決のために取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズを把握する取組みについては、効果的な広報を行うためにもしっかり行いたい。 ・インバウンド対応については、コロナ対策で1年延期された東アジア文化都市事業と連携を取りながら取り組みたい。 ・市民センターに対する取組みは継続する。 ・団体客誘致、広報活動については、コロナ終息後を見据えた対策を検討する。

評価項目5: 環境～快適なアメニティ空間の演出～

外部評価

	評価	理由
① 実績に対する評価	次のとおり	<p>○現場との意見交換について</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術館は大規模建築物かつ広い敷地であるため、清掃、監視、消防、設備などを総合的かつ適切に管理していくためには、1年に1回の会議等だけでなく、現場を直接管理する責任者の点検、打ち合わせを年3～4回程度は実施し、確実に現場にフィードバックしていくことが望まれる。 会議の結果、どのような問題点があげられたか、点検の結果どのような問題点が指摘されたか、今後の対応まで至った協議が持たれたのかについて、一定程度具体的に明示していただきたい。 <p>○アネックス棟の改修について</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民が芸術活動を発表できるギャラリー棟として増築されたが、このことは市民全体に周知されているとは言い難い。予算獲得と同時に市民にその活用事例や必要性を十分に周知する必要がある。 予算との関係で如何ともしがたい面があるが、限られた予算の中で、急を要する工事など優先順位を付けた対応も必要になってくるのではないかとと思われる。 アネックス棟の老朽化に対する整備はぜひ進めてほしい。現在は本館、アネックス棟が完全に分離してしまっているように感じる。最終的には各部署と協力し、両館の繋がりをもった環境作りを目指してほしい。 <p>○カード決済について</p> <ul style="list-style-type: none"> 便宜を図ることは重要であると考え。この点については、評価シート記載のとおり、今後も検討を続けていただきたい。 展覧会等でカード決済の可否でグッズ等の売り上げは大きく変わってくる。引き続き、前向きな導入の検討をお願いしたい。 <p>○環境整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災面、防犯面、顧客満足という様々な観点で現場や部署の垣根を超えた検討の場を持ってほしい。

	妥当性	理由
② 自己評価の妥当性	【総合評定 B】 妥当である。	<p>○現場会議の回数が1回であったということが自己評定の基礎事情であるかのような記載の仕方になっているが、どのような問題点があってどのような内容の会議を重ねる必要があったのかによって本来実施すべき回数が異なってくると思われる。この点を明確にしないまま回数を重ねることは避けていただきたい。</p> <p>○今後しばらくの間コロナ禍の影響があり、会議のあり方もリモート会議、書面会議等様々な工夫が求められている。このような会議方法を導入することによって、むしろより実効性のあるものになるのではないかとと思われる。</p> <p>○予算との関係ですべての改修工事の実施は今後も困難と思われるので、優先順位をつけて、また見直しをしつつ行うことはやむを得ない。アネックス棟に関する工事内容についても優先順位をつけ、急を要するものから実施する方法を探ることもできるのではないかと。</p>

③ 運営改善の提言	<p>○コロナ対策は、長期にわたることが予測されるため、構造物の配置や物品等のハード面の対策とともに、ソフト対策として来館者が密にならないように円滑に誘導する美術館ならではの独自のガイドラインを作成して周知すること望まれる。</p> <p>○アネックス棟の予算確保のためや市民にその内容、目的を理解してもらい参画してもらうために、クラウドファンディングや、熊本地震の際に熊本城の石垣を復活させるために寄付者の名前を石垣に明示して熊本城主の1人になってもらう取組み、或いは住民向け地方債の発行などを参考に、美術館独自の予算獲得方策を検討してはどうか。</p> <p>○コロナ禍の影響がある現時点だけではなく、今後リモート会議等の導入により会議開催の調整がつきやすくなる面があると思われる。問題点の的確な把握・明示がより一層重要になってくるし、実施方法如何によってはむしろ実効性あるものとなる機会となりうると思う。</p> <p>○特にキャッシュレス決済(スマホ決済)について進めていってみたい。クレジットカードに比べ手続等が簡素と聞く。</p> <p>○館内に携帯電話の電波が届かない場所もある(アネックス棟等)。地震等の特別警報が来館者に直接入るようにしたほうがよい。緊急の場合は館内放送では間に合わない場合がある。</p>
-----------	--



課題解決のために取り組むこと
<ul style="list-style-type: none"> アネックス棟の老朽化に伴う改修については、今後も積極的な予算確保に取り組む。 館の安全確保と適正管理にむけ、現場スタッフとの取組みを再度検証して活かしていきたい。 館内のネット環境については、リモート会議、リモートワークショップの開催を見据えて順次整えていきたい。 キャッシュレス決済については、スマホ決済の実証実験中であるが、実験結果を踏まえカード決済を含めて本格導入を行いたい。